

第127期生 表彰式 挨拶

日 時 平成26年2月28日（金）

場 所 福島県立安積高等学校第一体育館

先ほど受賞された生徒の皆さん、本当におめでとうございます。
改めて私の祝福の気持ちを伝えたいと思います。

言うまでもなく3年生が主役の表彰式なので、大震災後の、
3年間の駆け足で振り返ってみましょう。

平成23(2011)年は、社会全体がまだ重苦しい空気に包まれていた6月に同じ東北の岩手県平泉が世界遺産に登録され、7月にはサッカー女子ワールドカップで日本代表が優勝、11月にはブータンのワンチュク国王夫妻が来日し、被災地の人々を励ました。

平成24(2012)年は、3月に被災3県を含めた全国が地上デジタル放送に完全移行、7月にはロンドンオリンピックが開催され、12月には京都大学の山中伸弥氏がノーベル生理学・医学賞を受賞し、また、政権交代があったのもこの年でした。

そして平成25(2013)年は、5月に長嶋茂雄さんと松井秀喜さんが国民栄誉賞を受賞、10月には体操の世界選手権において当時17歳の白井健三選手が男子床で優勝するなど明るい話題もありましたが、3月に北海道・東北各地で痛ましい暴風雪事故が多発し、8月から9月にかけて全国各地で記録的な大雨による被害、竜巻の発生が相次ぐなど、自然災害が日本列島を痛めつけた年でもありました。

ここで、生徒諸君の活躍に目を転じてみましょう。

安積の勉強をしっかりとやりながら、部活動でも頑張る「文武両道」は、「言うは易く行うは難し」で本当に大変なことです。生徒諸君はよくやっていると思います。

この3年間の中で、ハンドボール部女子が全国高校選抜大会に出場しベスト8進出を成し遂げたのを始め、合唱部が全日本合唱コンクール全国大会において昨年度まで3年連続の金賞を受賞し

たほか、硬式テニス部、弓道部、ゴルフ部や放送委員会、写真部、弦楽合奏部、化学・生物・地学部、将棋部、囲碁同好会などが全国大会に進むなど、安積の名を全国に轟かせて文武両道を実践しています。

全国出場を果たせなかった、また、残念ながら今回の受賞には至らなかった部・同好会の生徒諸君も、それぞれ自己ベストの更新を目指し、或いは、今までで最高のパフォーマンスを見せるべく、大変な努力を継続してきたことでしょう。

安積高校でひたすら勉学に専念する、という選択肢もあるわけですが、ほとんどの生徒諸君は、勉学のみならずスポーツ・文化活動にも積極的に取り組んできました。このことは、これからの長い人生の中で、何らかの形で生かされるはずですが、順風満帆とはいかないのが人生です。

そんなときに思い出してほしい言葉を紹介して私の話を終わります。

江戸時代の儒学者、佐藤一斎の言葉です。

(言志晩録 13 条)

一灯を提^さげて暗夜を行く。

暗夜を憂^さうなかれ、

ただ一灯を頼め。

たとえ小さな光でも、大きな闇ではなく光に目を向けるべし。

その小さな光を信じて歩み続けよ。

光=志、希望、夢、愛・・・

「安積野 129 号」でも